分かりやすい説明文を書こう
－定時制生徒の実態に応じた説明文指導－

1　科 目 名　　国語総合

2　単 元 名　　分かりやすい説明文を書こう（第２学年）

3　教 材 名　　定義の説明文（〇〇とは何か、を説明する）

4　単元の内容

単元の目標と評価規準・評価方法

①単元の目標

ア　相手を意識しながら進んで文章を書こうとする。（関心・意欲・態度）
イ　論理の構成や展開を工夫し、効果的な構成で文章を書くことができる。（書く能力）
ウ　文や文章の組み立て、語句の意味、用法などを理解する。（知識・理解）

≪補足≫具体的には、下記の例のような説明文を書けるようになることが目標である。（一人暮らしを始める料理初心者の20代男性に、「二度揚げとは、何ですか」と聞かれた場合に書く説明文）

二度揚げとは、揚げ物を美味しくする調理方法のこと。（注：この部分が概要）
【やり方】160度の低温で食材を揚げたあと、油から取り出し３～４分休ませる。この間に余熱で中心部にまで火が通る。その後、180度の高温でもう一度揚げる。揚げる時間は物によって異なる。
【効果】中はジューシー、外はカリカリとなる。二度揚げせず、一度で中まで火を通そうとすると、火が通る前に外面が焦げてしまう。
【対象物】大きめの鶏のから揚げ、一尾の魚のから揚げ、ポテトなど。

②単元の目標設定の理由

（１）社会生活において求められる「説明」の力

「説明」は日常生活において頻繁に接する言語活動である。電化製品の使い方、薬の効能、新しく始まるサービスの説明などがある。また、社会生活において「説明」という行為が一層求められるようになっている。「アカウンタビリティ（説明責任）」、「インフォームドコンセント（説明と同意）」という言葉の流布からもそのことが分かる。さらに広義の意味での説明は、いくつかの言語活動（報告、解説、紹介、記録など）の基盤となる。

一方、書店に「分かりやすい説明」に関する本が並んでいることから、社会人が「説明」に難儀していることが推測できる。このような今日の社会に応じ、生徒たちの説明力を高めたいという思いのもと、本主題を設定した。

（２）生徒のおおまかな実態から

本校は定時制である。定時制の生徒は、様々な事情を抱えている場合が多い。複雑な家庭環境、外国籍、小中学校時代での不登校傾向などがある。また、基礎的な学力が十分ではない生徒が多い。特に「書く力」が不足している。「書くことが思いつかない」、「支離滅裂な文を書く」といったことがある。

本校の生徒が説明を求められるのは、たとえば次のような場面がある。授業中における教師の発問を答えるとき、遅刻した際に説明するとき、二者懇談で自己の進路や悩みを伝えるときなどである。これらが、話し言葉で行なわれる場合は双方のやりとりにより情報の伝達が達成される。しかし、書き言葉の場合、非常にわかりにくい（支離滅裂、構成が無計画）ものであることが多い。

本校の生徒の多くは卒業後に就職する。そこで、卒業後に「社会人にふさわしい文章が書けるようになっていてほしい」という願いから書くことの研究を始めた。

（３）生徒の具体的な実態から

実態をつかむため、以下の条件で説明文を書かせた。
（２クラス、合わせて23名の生徒が対象）

書く題材：「東京ディズニーシーとは何か」
書く相手：70代の男性（孫に「東京ディズニーシーに連れていって」と言われが、それが何か

わからない男性に説明する）
書く目的：明示しなかった（目的意識があるかどうかの実態を把握するため）

		○		×	
項目	評価項目	人数	割合	人数	割合
概要	概要の1行目の文末が、わかりやすい形になっている	8	35%	15	65%
構成	説明要素に分けて、多面的に説明している（概要を含めて5つ）	8	35%	15	65%
取材	読み手にとって必要な情報（入場料金、交通手段、場所、アトラクションなど）を書いている	7	30%	16	70%
記述	読み手にとって難しい言葉に、解説を加えている（または、難しい言葉を使っていない）	7	30%	16	70%

「概要」について、理想的な概要とは、冒頭で「東京ディズニーシーとは、日本で絶大な人気を誇る海をテーマとした遊園地のことである」と大まかに説明するものである。過半数の生徒がそのような書き方ができなかった。そもそも、23名中、20名の生徒が書き出しについて困っていた。生徒の実態をつかむため、本来なら教師が助言をすることは避けたかったのだが、白紙で提出されても実態をつかめないので、助言・指導をした。書き出しの書き方も「構成」の一つとして指導するべきである。

「構成」については、過半数の生徒が目標を達成していた。しかし、説明要素（説明対象をさまざまな角度から見たもの。ディズニーランドの場合、「場所」、「行き方」、「入場料金」など）を分析すると、相手意識・目的意識に欠けている生徒が多かった。説明する必要性が高くない説明要素、つまり施設の大きさの数値（ヘクタール）や、施設内のトイレに鏡がない事実が書かれていた。（相手意識・目的意識が汲み取れたのは４名のみ）。

「記述」の面では、「らしい」という情報の信頼性に関わる言葉を使う生徒がいた。また、１名を除く生徒が、読み手である70代の男性にとって理解しづらいと思われる言葉（「アトラクション」など）を配慮することなく使っていた。

前述したが、定時制課程にはさまざまな生徒が在籍しているため、学力の個人差が大きい。作文への抵抗が小さい生徒がいる一方、外国籍で日本語が拙い生徒、中学時代に不登校であった生徒などがいる。したがって、個に応じた指導が、他校の生徒より効果的であると考えた。実践する個に応じた指導は２つで、「個人カルテ」と「個別支援用の机列表」である。詳細は後述する。

③中心となる学習活動　「説明文を書く」
（１）本研究における「説明」の定義
指導をより効果的なものにするため、説明という行為を明確に定義した。
参考文献には、以下のように書かれている。

①国語学会編『国語学大辞典』（1980　東京堂出版）（「説明」の項　樺島忠夫氏執筆）
ある対象に接している人（または接している人）に、外見や客観的観察（経験的事実）だけではとらえることができにくい構造・機能・作用・効果・価値・成立・由来・原因・結果・未来に対する予想などを知らせること。

②田近洵一　井上尚美編『国語教育指導用語辞典［第四版］』（2009　教育出版）（「説明文」の項　吉田裕久氏執筆）
書き手が、ある内容（知識・情報など）を、それについて知りたいと思っている人に、要点を整理して、よくわかるように「説き明かす」文章のこと。（中略）
「何か」という問いに対して「こうだ」と明晰に答えること。

③国語教育研究所『「作文技術」指導大事典』（1996　明治図書）　（「説明文の作文技術」の項　小田迪夫氏執筆）
あるものごとをとりあげ、その成りたちや仕組み、はたらき、価値などを、それが成りたつ理由、根拠、条件などとともに明らかにして、それを知らない人に伝えわからせる文章。その正体や中身を知らない人に、それがどんなものかがわかるように説き明かす（解き明かす）こと（中略）相手（聞き手・読み手）にわからせることを目的とする表現。

④米田猛　『「説明力」を高める国語の授業』　（2006　明治図書）

①説明の主体―ある事柄（説明事項）についてよく知っている人（が）
②説明の相手―ある事柄（説明事項）について知らない人、わからない人（に対して）
③説明の内容―外見や客観的観察（経験的事実）だけではとらえることができにくいさまざまな事柄（について）

④説明の目的―ある事柄（説明事項）について理解や納得を得る。
⑤説明の方法―実物・模型・図解などの手法を駆使する。

これらを総合して、本研究では、説明を次のように定義する。

①主体→ある事柄についてよく知っている人、分かっている人（が）
②対象→その事柄について知らない人、知りたい人、分かっていない人（に対し）
③内容→定義、情報、価値、仕組み、手段、機能、効果、原因、結果など（について）
④方法→分かりやすい構成で、客観的な記述を中心とし、図、表、グラフ、具体例など（を用いて）
⑤目的→理解・納得（を得ること）

（２）「説明」の類型化
米田猛氏は、『「説明力」を高める国語の授業』で以下のように述べている。

説明の「方法」として、よく知られているものに次のようなものがある。
①定義による方法
②証明による方法
③分類による方法
④分析による方法
⑤比較・対照による方法
⑥引例・図解による方法
⑦実物による方法
これらの「方法」は、説明事項によって適切に選ばれたり、組合されたりしなければならない。つまり何を説明するかによって、説明の方法は異なるのである。

そこで、本研究では、何を説明するか（＝説明事項）に応じて、説明文を以下の４つに分類した。
【１】定義の説明文（親とは何か、大学入試制度変更の概要）
【２】手順の説明文（オムレツの作り方、東京駅への道順）
【３】違いの説明文（野球とソフトボールの違い）
【４】原因・理由の説明文（なぜＡ社は倒産したか、雪が白い理由）

そして本研究では、日常生活で求められる頻度が多いと想定されやすいと考えられる【１】の定義の説明文を扱うことにする。なお、具体的に、「どのような説明文が書けるようになるか」については「４　授業実践」の「（５）評価規準（書く能力）」で記す。

（３）「目標を明確化」とは
【１】「目標を明確化」の概要
作文を書く際に必要な能力（＝目標）を、これまで以上に分析すること。文種によって、目標が違うのは明らかである。しかし、同じ説明文でも前述のように説明事項によって目標は変わってくる。前述のように説明文を分類することで可能となるより詳細な能力分析を行う。

【２】「目標を明確化」の方法
まず、参考文献をもとに説明文を分析し、分類する。その後、類型化した作文において、求められる能力分析をする。そして、「生徒達にここまで書けるようになってほしい」と考える模範文を、指導者が書く。そうすることで、指導者側が到達点を明確にする。また、この模範文を生徒達に示すことで目標をイメージしやすいようにする。

④言語活動の工夫
作文に抵抗を示す生徒が多いので「書けない」➡「つまらない」➡「もっと書けなくなる」という悪循環を断ち切るため、以下のような指導上の工夫を心掛けた。

（１）模範作文（学習の到達点）の提示
「最終的に、このような説明文が書けるようになりましょう。工夫してあるところは、○○ですよ。」というような到達点を表す説明文の手本を教師側が書き、提示する。そうすること

で、生徒たちが「こういう作文が書ければいいのか」とイメージできるようにした。ただ、題材については、生徒たちが書くものとは別にした。（単純な模倣とならないように）

（２）個に応じた指導１　個人カルテの作成

生徒が書いた作文を観点ごとに評価するカルテをExcelで作る。個人カルテを作成することで、継続的・効果的な指導をできるようにする。カルテは、生徒に作文を書かせるたびに作成する。また、Excelで作成することで、記録として残せるようにする。生徒にも分かる表現で書き、回収した生徒の作文と共に返却する。ただ、このカルテだけでは無味乾燥な評価となってしまうので、生徒の原稿用紙には、優れた点を価値付ける評価を手書きで書く。

1	大垣　太郎		
時数	8	学んだ説明文の書き方を活かして書こう	
作文数	3	21歳男性のAさんに、自社の車の説明をしよう	
	項目	評価項目	評価
	概要	概要の1行目の文末が、わかりやすい形になっている	○
	構成	説明要素に分けて、多面的に説明している（概要を含めて5つ）	
	取材	読み手にとって必要な情報（燃費、価格、安全性、内装、外装、エンジン、色）を書いている	○
	取材	32行以上書いている	
	記述	読み手にとって難しい言葉に、解説を加えている（または、難しい言葉を使っていない）	

（３）個に応じた指導２　個別支援用の机列表の作成

生徒一人ひとりの特徴を書いた表を作る。特徴とは、書くことにおける能力に関するもの、声かけの仕方、配慮事項などを記載する。授業の前に机列表を用意することで、計画的・効果的な机間指導をできるようにした。また、机列表に書いてある内容は、常に更新する。下記がその机列表であるが、実際は氏名が入ったものを使っている。

2年1組　机列表

12	△学力が低く、課題を理解していないことが多い。口頭での質問で、課題理解をTが確認する	9	○クラス内で、最も能力が高い △集中できていなかったり、課題を理解せずに進めたりすることが、非常に多い。序盤、中盤で必ずTが確認する	6	○2年生になってから、意欲的に取り組もうとしている △「何をすればいいのかわからない」状態に陥りやすい。個人で考える時間になったら、Tが一番に進行状況を確認すべきである	3	○意欲がある △困ったことがあっても、自分から質問することは稀である。様子をよく観察し、困っていたらTから声をかける
11	○能力が高く、課題を理解して書き進めることができる	8	○発想力が高く、優れた作文を書く能力を持っている △一方、自分が考えた優れたアイディアを大きな声で発言してしまう。それでは、他者の考える機会を奪ってしまう。つぶやきが多くなったら、Tが近寄り、様子を窺う	5	○意欲があり、時間をかけて考える △考えすぎて時間が足らなくなることが多いので、中盤でTが声をかける	2	○意欲、書く能力もクラス内の平均以上
10	○意欲が高い △課題を理解せずに書き進めてしまうことが多い。頻繁にTが確認する	7	○意欲があり、作業が早い △やるべきことや課題を理解せずに進めてしまうことがある。6の生徒の次に、Tが確認すべきである	4	○意欲が高く、いつも前向きに取り組んでいる ○書く能力もある	1	△授業後半になるまで、やる気を出せない。やる気を出したあとの取り組みがよい。頻繁にTが励ます
			教卓				

（４）題材について

生徒達ができる限り関心を持てるように工夫する。たとえば、本校は工業高校なので、車好きな生徒が多い。したがって、「車のセールスマンになったと仮定して客に自社の車を説明しよう」というものである。

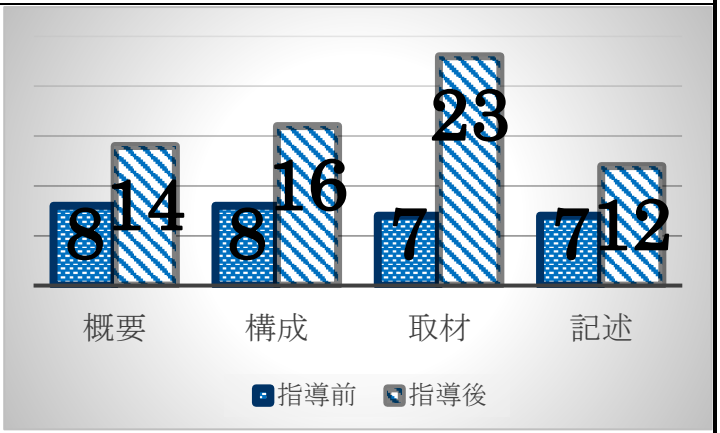
⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	相手を意識しながら進んで説明文を書こうとする。	観察	書くことに関心が持てない理由を分析し、それに応じた対応をする。 ①書き出しがわからない ②書く題材がない ③よい書き方がわからない
書く能力	構成について、以下の２つの点を工夫して説明文を書くことができる。 ①概要➡詳細の順序で書く。つまり、第一段落で概要を書いている。 以下の条件を満たして概要を書くことができる。≪①その対象を説明するキーワードが使われている　②文末でその対象を端的に表す語が使われている≫ ②多面的に説明する。つまり、対象を複数の説明要素に分けて説明する。また、段落は説明要素ごとに分ける。	生徒が書いた作文	以下の２つの対応をする。 ①メモを作る段階で、書き出しが適切かどうか確認する。不適切な場合は模範文を参考にさせる。 ②机間指導をし、生徒が作文を書き上げる前に構成が適切か確認する。
知識・理解	構成について、分かりやすい説明文を書くための以下の２点を理解している。 ①書き出しで、概要を述べる。 ②対象を複数の説明要素に分けて説明する。また、段落は説明要素ごとに分ける。	確認テスト	模範文や既習の学習プリントを再確認させる。

成果と課題

【成果】

① 指導前と指導後（第10時の作文を書かせるとき）の目標を達成した人数の変化を右のグラフで示した。（全23名）「構成」について、目標を達成できる生徒の割合が約35%から約70%に増加した。



【課題】

① 「構成」の目標を達成できなかった例として、「説明要素を７つ取り上げたため、それぞれの説明が十分ではない」、「指定された構成とはまったく違う構成」というものがあった。形成的評価の方法に問題があった。

② 説明文を書く場の設定に工夫が必要だった。次項の「アドバイス」にある「題材が満たす条件」に当てはまるものを考えることができなかった。第８時～第１０時で取り上げた「車」という題材は検討が必要であった。特定の車種を説明する場合、他の車種と比較した見方が必要である。しかし、車を運転することがない生徒にそのような横断的視点を持たせることは難しかった。

アドバイス 及び 留意点	題材は、次の条件を満たすものが望ましい。 1.　生徒がそれについて詳しく知っている（説明できる）。 2.　生徒にとって関心が高い。 3.　読み手が身近であり、実際に読んでもらえる。
小中学校との系統性	①　小学校・高学年・書くこと イ　自分の考えを明確に表現するため、文章構成全体の構成の効果を考えること。 ②　中学校・第３学年・書くこと ア　社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

5　単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	自身の書く能力を知る（第１回作文）	・生徒用の単元の計画を読み、本単元の見通しをもつ。 ・題材「東京ディズニーシーとは何か」について、説明文を書く。 ※１、※２、※３ ※１本時は、教師側が生徒たちの実態をつかむことが狙いであり、あえて何も指導しないで書かせるという意図を伝える。 ※２本時の意図を話し、次回からはきちんと書き方を教えることを伝える。 ※３本時の作文は、成績に含めないということも伝える。	単元の見通しをもち作文を書こうとしている。【関】 ↓ 観察（机間指導）	
2	説明文の定義を理解する。 相手の知識・理解度に配慮した用語の使い方を理解する。	・説明文の目的を理解するため、日常生活において自分たちが説明を必要とする場面を想起する。その場面から、説明文の定義（相手、目的）を考え、理解する。 ・専門用語が多用された説明文を読み、改善策を考える。そうすることで、説明文を書くときには、理解度に配慮した用語の使い方を理解する。	説明文の定義を理解している。【知】 相手の知識に配慮した用語の使い方を理解している。【知】 ↓ 学習プリント	学習プリントを見直しさせる。
3 (本時)	概要の書き方を理解し、身に付ける。	・「口絵」、「月餅」、「カラーリスト」などの単語に意味を説明しようとする。※１ ・上記の言葉が、『ポプラディア』ではどのように説明されているか知る。 ・『ポプラディア』の説明の工夫点(①冒頭が概要で始まっている。②概要の一文の文末が、その説明対象を端的に表す言葉にしてある)を考え、理解する。 ・指定された複数の単語の説明文の概要を書く。 ※１取り上げる単語は、生徒が説明するのに困難で、なおかつ『ポプラディア』の説明が秀逸なものにする。	指定されたすべての単語の概要を書くことができる。 【書く】 ↓ 学習プリント	生徒の状況に応じて対応する（詳細は、「本時の指導案」に後述する）

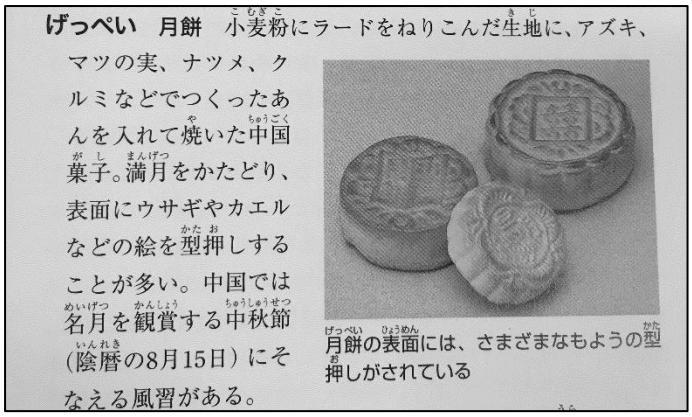
4	相手意識を持ち、説明文では相手が疑問に思うこと、知りたいと思うことを書くことが必要だと理解する。	・自分が説明する場面を想定し、その際はどのようなことが知りたいか、考える。 「もし、友人に『プラムの国に行こう』と言われたら、あなたはどのような説明が必要か」 ○プラムとは何か ○プラムの国は、どこにあるか	説明文で書くべきことを理解している。【知】 ↓ ワークシート	読み手の立場になって、どのような情報がほしいか考えさせる。 別の場面を挙げて考えさせる。
5	説明要素ごとに段落を変える構成を理解する。	・『ポプラディア』の記事を読み、説明要素ごとに段落分けされている構成の工夫を理解する。	必要な段落構成を理解している。【知】 ↓ ワークシート	『ポプラディア』の手本の見直しをさせる。
6	第２～４時で学んだことを生かし、作文を書く（第２回作文）	・50代後半の副校長に、修学旅行で訪れる遊園地（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）の説明文を書く。（この時間は、取材のみ）	説明文では、書くべきことを理解し集材している。【書く】 ↓ ワークシート	50代後半の男性の立場になって考えさせる。
7	第２～４時で学んだことを生かし、作文を書く（第２回作文）	・既習事項の復習をする。 ・50代後半の副校長に、修学旅行で訪れる遊園地の説明文を書く。	構成において、以下の条件２点を満たして書けている。≪①その対象を説明するキーワードが使われている　②文末でその対象を端的に表す語が使われている≫【書く】 ↓ 生徒の作文	構成に関する条件①を満たしていない➡遊園地の特徴がわかるよう、他の遊園地と比較させる。 ②を満たしていない➡「単語一語で表すと、どうか」と問いかける。
8	学んだことを生かし、作文を書く（第３回作文）	・前時に書いた作文の評価を読み、自分の課題を理解する。 ・自己の課題を意識しながら、「セールスマンとなって、20代の男性に自社の車を説明する」説明文を書く。 （取材）	説明文では、書くべきことを理解し集材している。【書く】 ↓ ワークシート	20代の男性の立場になって考えさせる。
9	学んだことを生かし、作文を書く（第３回作文）	・自己の課題を意識しながら、「セールスマンとなって、20代の男性に自社の車を説明する」説明文を書く。 （取材・下書き）	構成において、以下の条件２点を満たして書けている。≪①その対象を説明するキーワードが使われている　②文末でその対象を端的に表す語が使われている≫【書く】 ↓ 生徒の作文	構成に関する条件①を満たしていない➡対象の車の特徴がわかるよう、他の車種と比較させる。 ②を満たしていない➡「単語一語で表すと、どうか」と問いかける。
１０	学んだことを生かし、作文を書く（第３回作文）	・自己の課題を意識しながら、「セールスマンとなって、20代の男性に自社の車を説明する」説明文を書く。 （清書）	構成において、以下の条件２点を満たして書けている。≪①その対象を説明するキーワードが使われている　②文末でその対象を端的に表す語が使われている≫【書く】 ↓ 生徒の作文	構成に関する条件①を満たしていない➡対象の車の特徴がわかるよう、他の車種と比較させる。 ②を満たしていない➡「単語一語で表すと、どうか」と問いかける。

6　第　3　時の学習指導案

本時の位置	３時間目（全　１０　時間）
本時の学習目標	説明文の第一段落で説明対象の概要を書くと分かりやすいことを理解する。また、概要を書くことができる。 ※本研究では、概要を以下のように定義する。 ①説明対象を表すキーワードが複数含まれている。 ②文末が、その説明対象を端的に表したものになっている。 ③文字数が20字～50字程度である。
事前の準備	①　自作の学習プリント ②　ポプラディアの手本

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入7分	□本時の学習内容を知る。	①課題「説明文の分かりやすい概要の書き方を理解し、実際に書こう」という課題を知る。 ②「口絵」、「月餅」、「カラーリスト」などの単語の意味を答えようとする。	※生徒が考えやすいように例文を準備しておく。 ※提示する単語は、生徒の実態に合わせて「意味を知っていそうで知らないもの」でなおかつ『ポプラディア』の説明が秀逸なものにする。（図①）そうすることで『ポプラディア』の説明が「分かりやすい」と実感できるようにする。
展開37分	□概要を書く。	②上記の言葉が『ポプラディア』ではどのように説明されているか読み、わかりやすくする工夫点を考える。 ④『ポプラディア』の説明の工夫点(〈１〉書き出しが概要で始まっている。〈２〉概要の一文の文末が、その説明対象を端的に表す言葉にしてある)を考え、理解する。（ポプラディアの記述は、下記の図①を参照） ④指定された５つの単語について説明文の概要を書く。 ５つの単語 １.）　ラーメン ２.）　マクドナルド ３.）　炊飯器 ４.）　ユーチューブ ５.）　自転車	目標に対する評価規準と評価方法 〔規準〕 以下の３点を評価する。 ①説明対象を表すキーワードが複数含まれている。 ②文末が、その説明対象を端的に表したものになっている。 ③文字数が20字～50字である。 〔方法〕 学習プリント 〔状況Ｃの生徒への手立て〕 ①キーワードが思いつかない。 →指導者と会話することで思いつかせる。 ②文末がその説明対象を端的に表したものになっていない。 →「単語一語で言うとそれは何か」と問いかける。 ③文字数が少ない →キーワードや修飾語を考えさせる。 ④文字数が多い →削れる箇所を共に考える。
まとめ1分	□作文を提出する。	⑤作文を提出する。	・作文は評価しコメントを添えて返却することを伝える。 ・次時に返却できるよう、評価・コメントは早く行う。

図①



げっぺい　月餅　小麦粉にラードをねりこんだ生地に、アズキ、マツの実、ナツメ、クルミなどでつくったあんを入れて焼いた中国菓子。満月をかたどり、表面にウサギやカエルなどの絵を型押しすることが多い。中国では名月を観賞する中秋節（陰暦の8月15日）にそなえる風習がある。

月餅の表面には、さまざまなもようの型押しがされている

参考文献

① 国語学会編『国語学大辞典』（1980　東京堂出版）　（「説明」の項　樺島忠夫氏執筆）

② 田近洵一　井上尚美編『国語教育指導用語辞典[第四版]』（2009　教育出版）（「説明文」の項　吉田裕久氏執筆）

③ 国語教育研究所『「作文技術」指導大事典』（1966　明治図書）　（「説明文の作文技術」の項　小田迪夫氏執筆）

④ 飛田多喜雄　大熊五郎『文章表現の理論と方法』117 ページ（1975　明治図書）

⑤ 米田猛　『「説明力」を高める国語の授業』　（2006　明治図書）

⑥ 坂井宏先発行　『総合百科事典ポプラディア』　（2002　ポプラ社）

⑦ 文部科学省　『高等学校学習指導要領解説　国語編』（2010　教育出版）

⑧ 奈良国語教育実践研究会編　『楽しい国語の授業３　課題条件法による作文指導　中学校編』　（1990　中央出版）

⑨ 藤沢晃治　『「分かりやすい表現」の技術　意図を正しく伝えるための 16 のルール』　(1999　講談社)